

昇仙峡地域活性化計画[令和2～4年度]

【資料1】

○地域文化財総合活用推進事業(補助率10/10) 補助金の種類:文化芸術振興費補助金 対象事業:人材育成事業、普及啓発事業、調査研究事業

分類	事業	事業概要	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
人材育成事業	①昇仙峡ガイド養成事業	国内外からの来訪者が、構成文化財や昇仙峡の持つ歴史などを分かり易く理解し、周遊できるよう資料整理、多言語対応のガイドブック作成を行い、地域住民等による有償ガイドを育成する。	○	○	○
普及啓発事業	②構成文化財再発見事業	構成文化財である①水晶②研磨技術とジュエリー産業③金櫻神社と羅漢寺④御嶽新道と文人などのそれぞれの題材ごとに、調査を行い、市民がその歴史や背景を理解し、県外や次代へ語り継げるよう、市民や子どもを対象とした講座や講演会、体験、見学ツアー、シンポジウムなどを開催する。		○	○
	⑤日本遺産を理解するためのイベントの実施(研磨体験事業)	「宝石のまち・甲府」の礎となった研磨技術を広く後世に伝える研磨技術を体験する事業を開催する。		○	○
調査研究事業	③モニターツアーを活用した環境整備調査(訪日外国人向けツアー)	ツアー企画者を対象としたモニターツアーを実施し、訪日外国人が昇仙峡エリアで必要と感じる環境等の調査を行い、外国人観光客に受け入れられる環境整備の基礎資料とする。		○	
	④モニターツアーを活用した環境整備調査(学校向け社会科見学ツアー)	小中学校の教諭等を対象としたモニターツアーを実施し、昇仙峡エリアを校外学習の場とするための調査を行い、今後の環境整備の基礎資料とする。		○	
	⑥昇仙峡総合学術調査	昇仙峡地域の地質調査をはじめ、自然、民俗芸能、文化財、信仰等について、幅広く学術的な知見からの総合的な調査を実施する。	○	○	
	⑦未指定文化財の調査研究(修験道に関する更なる研究)	修験道の元である蔵王権現と金櫻神社、旧羅漢寺に関する調査研究は進んでおらず、更なる文献調査、遺構調査を行う。		○	
	⑧古道に関する調査研究	寛円峰の上部を通る江戸時代の生活道路など、昇仙峡における複数ルートの調査研究を進め、古道の歴史を探るとともに、新たな観光ルートへの活用を検討する。		○	
	⑨嗜好性調査(観光客の動向調査)	山梨県を訪れる国内外の観光客が、どのようなルートで来訪し、訪問をしているのか行動パターンを分析することにより、ターゲットの明確化、効果的な情報発信などの戦略を立てることが可能となる。	○		
	⑩その他(マウンテンバイク等によるコースの調査研究)	新たな観光アクティビティとして、ロードバイクやマウンテンバイクのコース等を研究して、新たなツアー商品開発の参考とする。		○	
	⑪その他(キャニオニングやシャワークライミング等の新たなアクティビティの調査研究)	昇仙峡の特徴である巨岩、奇岩、清流を体験できるキャニオニングやシャワークライミング、ロッククライミング、ラフティング等新たなアクティビティの導入可能性に関する調査研究を行う。		○	
⑫その他(昇仙峡地帯のブランディング化に向けた調査研究)	構成資産の景観と親和性のあるデザイン性、視認性に優れたサイン設置に向けた調査研究や昇仙峡への新たな誘客に必要な要素の洗い出しなどを調査し、今後のプロモーションに反映させていく。			○	

○観光拠点整備事業(補助率2/3を上限:昇仙峡地域活性化推進協議会) 補助金の種類:文化資源活用事業費補助金 対象事業:情報コンテンツ作成事業、活用整備事業

分類	事業	事業概要	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
情報コンテンツ作成事業	⑬多言語パンフレットの作成	調査研究事業の成果(構成資産に関する新たな事実や散策ルート等)を反映した多言語パンフレット等を作成する。	○	○	○
活用整備事業	⑭便益施設の設置(トイレのリニューアル)	トイレをウォッシュレットを完備した洋式トイレにリニューアルする。	○	○	
	⑮その他(構成資産の解説表示板、案内表示板の整備)	昇仙峡ブランディング調査研究の成果を活用し、統一感のあるデザインや字体によるサイン、看板類、解説板のリニューアルを行う。			○
	⑯便益施設の設置(散策路等におけるベンチ等の設置)	昇仙峡エリアの散策道は延長5キロメートルを超え、休憩施設としてベンチ等を設置する。	○	○	○

事業の名称	日本遺産「甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡」総合活用活性化事業
事業の内容 (具体的に記載)	<p>1. 人材育成事業 (1)日本遺産昇仙峡ガイド養成事業 昇仙峡エリアに來訪する観光客等に対し、日本遺産の構成文化財やストーリーを適切に説明できるよう、令和2年度から養成しているガイドに対し、実践を兼ねたフィールドワークを開催。</p> <p>【第1回】 ◆開催日:令和3年10月5日(火) 午前9時30分～午後2時30分 ◆開催場所:燕岩岩脈ほか ◆内容:荒川沿いの遊歩道(地形と地質) ◆参加者数:17名</p> <p>【第2回】 ◆開催日:令和3年10月14日(木) 午前9時～午後4時 ◆開催場所:御嶽古道ほか ◆内容:御嶽古道を歩く ◆参加者数:16名</p> <p>【第3回】 ◆開催日:令和3年11月9日(月) 午前9時30分～正午 ◆開催場所:金櫻神社ほか ◆内容:金櫻神社と金峰山信仰 ◆参加者数:18名</p> <p>【第4回】 ◆開催日:令和3年11月20日(土) 午前9時30分～正午 ◆開催場所:昇仙峡ロープウェイ山頂ほか ◆内容:昇仙峡の歴史と文化財(総論) ◆参加者数:17名</p> <p>●『日本遺産昇仙峡ガイド』認定者への今後のガイド活動用としてハンドブックを作成 作成部数:200部(日本遺産昇仙峡アシスタントガイドにも併用)</p>
得られた効果 (具体的に記載)	<p>1. 人材育成事業 (1)日本遺産昇仙峡ガイド養成事業 令和2年度に実施した養成講座受講者のうち『日本遺産昇仙峡ガイド』への登録希望者24名を対象にフィールドワークを実施。フィールドワークの全課程を修了した21名を『日本遺産昇仙峡ガイド』に認定した。 当初予定の毎年2名のガイド育成の目標を大きく上回っている。</p> <p>①目標値:2,000人(令和6年度の「日本遺産昇仙峡ガイド」の利用者数) ②実績値:159名(市民向け講座/昇仙峡エリア内イベント等) ③達成率:8%</p> <p>将来的には、より多くの『日本遺産昇仙峡ガイド』が観光客を対応できるよう持続的なガイド機会の創出として、市民向け現地学習会などを開催し『日本遺産昇仙峡ガイド』としての経験値を重ねていく。 令和4年度はインバウンドの受入体制整備のひとつとして、通訳案内士を対象にした『日本遺産昇仙峡ガイド』の養成講座を実施する。</p>

<事業報告書>

<p>事業の名称</p>	<p>日本遺産「甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡」総合活用活性化事業</p>
<p>事業の内容 (具体的に記載)</p>	<p>1. 人材育成事業 (2)日本遺産昇仙峡アシスタントガイド養成事業 市民向け及び子ども向けの現地学習会などにおいて、日本遺産昇仙峡ガイドのアシスタントをするために大学生を対象に養成講座を開催。 【第1回】 ◆開催日:令和3年12月25日(土) 午前10時30分～午後6時 ◆開催場所:山梨県立大学(B館208) ◆内容:御嶽昇仙峡の自然・歴史・観光/「日本遺産」構成文化財ほか ◆参加者数:15名 【第2回】 ◆開催日:令和3年12月26日(日) 午前8時～午後4時30分 ◆開催場所:金櫻神社/平瀬浄水場ほか ◆内容:御嶽昇仙峡に点在する文化財群 ◆参加者数:14名 【第3回】 ◆開催日:令和4年1月8日(土) 午前8時～午後4時30分 ◆開催場所:長潭橋～昇仙峡ロープウェイほか ◆内容:御嶽新道を歩く ◆参加者数:15名</p>
<p>得られた効果 (具体的に記載)</p>	<p>1. 人材育成事業 (2)日本遺産昇仙峡アシスタントガイド養成事業 『日本遺産昇仙峡ガイド』のアシスタントとして、座学とフィールドワークを実施。全課程を修了した13名を『日本遺産昇仙峡アシスタントガイド』に認定した。 当初予定には、アシスタントの想定はしていなかったが、広い世代に「ガイド」として活動してもらうため『日本遺産昇仙峡ガイド養成事業』の一環として実施した。 ●実績値:111名(市民向け講座/研磨体験事業) 研磨体験事業では「昇仙峡日本遺産ものがたり」のブースを設定し、巡回してくる参加者に日本遺産ストーリーや自然や文化の魅力を発信した。 今後は市民向けイベントの中で、日本遺産ストーリーや自然や文化の魅力を発信役を担うとともに世代間の交流にもつながる事業での活躍を目指していく。</p>

<事業報告書>

<p>事業の名称</p>	<p>日本遺産「甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡」総合活用活性化事業</p>
<p>事業の内容 (具体的に記載)</p>	<p>2. 普及啓発事業 (1)構成文化財再発見事業 甲府市・甲斐市の市民を対象にした日本遺産昇仙峡エリアの現地学習会を開催。 【第1回】 ◆開催日:令和4年1月22日(土) 午前9時30分～午後1時 ◆開催場所:御嶽新道ほか ◆内容:溪谷沿いで学ぶ『昇仙峡ものがたり』 ◆参加者数:15名 【第2回】 ◆開催日:令和4年2月5日(土) 午前9時30分～午後1時 ◆開催場所:白山社/金櫻神社ほか ◆内容:金櫻神社と御嶽古道で学ぶ『先人たちの思い』 ◆参加者数: ※新型コロナウイルス感染症の拡大により急遽中止</p>
<p>得られた効果 (具体的に記載)</p>	<p>2. 普及啓発事業 (1)構成文化財再発見事業 『日本遺産昇仙峡ガイド』と『日本遺産昇仙峡アシスタントガイド』を現地ガイドとして活用し、さらに昇仙峡総合学術調査研究やワーキンググループなどで得られた情報や見どころと日本遺産ストーリーを紹介することで、自分たちの生活に密接する文化や技術を改めて知る機会を創出できた。 ①目標値:基準年の20%UP(令和6年度の「日本遺産」の認知度) ②実績値:58.4%(令和2年度の小学生)/31.5%(令和2年度の中高門学生) ※次回の認知度調査は令和4年度実施予定</p> <p>日本遺産ストーリーが「シリアル型」で認定を受けていることから、甲府市民が甲斐市の文化財、甲斐市民が甲府市の文化財をそれぞれ自治体や協議会等の事業で現地学習できる機会が創出できたことは、協議会として非常に有意義であり、市民にも大変好評であった。 コロナ禍であるが、今後も自治体同士が連携した市民向け事業を継続的に実施していくことで、相乗的に地域資源の活用やシビックプライドの醸成を図っていく。</p>

<事業報告書>

<p>事業の名称</p>	<p>日本遺産「甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡」総合活用活性化事業</p>
<p>事業の内容 (具体的に記載)</p>	<p>2. 普及啓発事業 (2)日本遺産魅力発信誘客促進事業(研磨体験事業) 甲府/甲斐市民を対象とした研磨体験事業を開催。 【第1回】 ◆開催日:令和4年3月12日(土) 午前9時30分～午後6時30分 ◆開催場所:甲府市役所本庁舎 ◆内容:宝石研磨、昇仙峡日本遺産ものがたり ほか ◆参加者数 ①小学生の部:45名 ②中学生の部:22名 ③高校・一般の部:29名</p>
<p>得られた効果 (具体的に記載)</p>	<p>2. 普及啓発事業 (2)日本遺産魅力発信誘客促進事業(研磨体験事業) 日本遺産のストーリーの核となり「宝石の街・甲府」の礎となった研磨技術の体験を取り入れることにより、参加者のシビックプライドの醸成や次世代を担う子供たちへの技術(産業)の継承に繋がるきっかけを創出できた。 ①目標値:基準年の20%UP(令和6年度の「日本遺産」の認知度) ②実績値:58.4%(令和2年度の小学生)/31.5%(令和2年度の中高門学生) ※次回の認知度調査は令和4年度実施予定 令和4年度も普及啓発事業の中で「研磨体験」ができる機会を設け、より多くの市民が日本遺産ストーリーや昇仙峡エリアの魅力を再発見できるよう努めていく。</p>

<事業報告書>

<p>事業の名称</p>	<p>日本遺産「甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡」総合活用活性化事業</p>
<p>事業の内容 (具体的に記載)</p>	<p>3. 調査研究事業 (1)モニターツアーを活用した環境整備調査 構成文化財に触れる観光客の受入環境整備を検討するための基礎資料を作成するために教育旅行等受入環境整備調査及びインバウンド観光受入体制調査を行った。</p> <p>◆調査の実施 ア モニターツアーを活用した環境整備調査(学校向け社会科見学ツアー) イ モニターツアーを活用した環境整備調査(訪日外国人向けツアー)</p> <p>◆調査項目 ア調査 観光ガイド/情報発信(HP、広告、デジタルサイネージ等)/体験学習/無料Wi-Fi整備/ 交通(電車、路線バス、駐車場等)/便益施設(ベンチ・公衆トイレ等)/ 体験施設(店舗、公共施設等)/商業施設(飲食、物販の受入可能店舗数、必要数)/ その他(より効果的な調査とするための追加提案調査項目等)</p> <p>イ調査 観光ガイド/情報発信(HP、広告、デジタルサイネージ、看板等)/体験/無料Wi-Fi整備/ 決済方法(クレジットカード、QRコード等)/交通(電車、路線バス、駐車場等)/ 便益施設(ベンチ・公衆トイレ・ロッカー等)/ その他(より効果的な調査とするための追加提案調査項目等)</p> <p>◆調査報告書の作成 ◎調査報告書(50部)</p>
<p>得られた効果 (具体的に記載)</p>	<p>3. 調査研究事業 (1)モニターツアーを活用した環境整備調査 コロナ禍により自然環境や団体バスによる移動を主体にした修学旅行が増え、昇仙峡エリアには多くの学校が来訪したことから、実際に来訪した学校へのアンケート調査やインバウンドに精通した通訳案内士等へのヒアリングや現地調査などを実施した。</p> <p>①目標値:497,000人(令和6年の「昇仙峡エリア」への来訪者数) ②実績値:334,382人(令和3年1月～12月の合計) ③達成率:67.2%</p> <p>今後も増加が予想される教育旅行等やアフターコロナのインバウンド回復に備えた受入環境整備に活用していく。</p>

<事業報告書>

<p>事業の名称</p>	<p>日本遺産「甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡」総合活用活性化事業</p>
<p>事業の内容 (具体的に記載)</p>	<p>3. 調査研究事業 (2)昇仙峡総合学術調査研究 ストーリーを掘り下げ、新たな事実の発見を目的に総合的な学術調査を行った。 ◆学術調査の実施 ①民俗芸能 能三番(上黒平、下黒平)/金櫻神社の大々神楽等/当該日本遺産に係る対象エリア内の民俗芸能 ②文化財 御嶽昇仙峡エリアにおける未指定も含めた文化財 ③信仰 金峰山信仰と御嶽道 ④その他、当該日本遺産に係る事項 ア 水晶加工の歴史 イ 御嶽昇仙峡開削の歴史と文学・芸術 ウ その他、必要と思われる分野に係る事項 ◆調査報告書の作成 ◎調査報告書(5部) ◎調査報告書の概要版(100部)</p>
<p>得られた効果 (具体的に記載)</p>	<p>3. 調査研究事業 (2)昇仙峡総合学術調査研究 調査研究により得られた「御嶽昇仙峡」を構成する文化財等の情報を活用し、豊かで身近な地域資源を再認識できるよう『日本遺産昇仙峡ガイド養成事業』や『構成文化財再発見事業』、『日本遺産魅力発信誘客促進事業』に展開でき、シビックプライドの醸成と子どもたちの観光教育の普及を図る良い調査研究事業となった。 ①目標値:100,000pv(令和6年度の「日本遺産ホームページ」閲覧数) ②実績値:2,338pv(令和4年3月28日現在) ③達成率:2.3% 今後もインターネットを活用した情報発信が主流となることから、画像を活用しながら学術調査研究の内容を分かり易く発信していく。</p>

<事業報告書>

<p>事業の名称</p>	<p>日本遺産「甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡」総合活用活性化事業</p>
<p>事業の内容 (具体的に記載)</p>	<p>3. 調査研究事業 (3)未指定文化財の調査研究(修験道に関する更なる研究) 山岳信仰と御嶽古道沿いの信仰に係る構成文化財の相関関係調査を行った。 ◆調査の実施 ①旧羅漢寺遺構UAV地形計測、地形図等作成 ②旧羅漢寺遺構石垣・階段3次元計測、各種図面作成 ③旧羅漢寺遺構の地形・地質状況の調査 ④御嶽古道(吉沢筋)沿いに所在する信仰関連文化財の分布調査 ◆調査報告書の作成 ◎調査報告書(5部)</p>
<p>得られた効果 (具体的に記載)</p>	<p>3. 調査研究事業 (3)未指定文化財の調査研究(修験道に関する更なる研究) 調査研究が進んでいない旧羅漢寺遺構の測量調査及び地形・地質の調査並びに御嶽古道石造物群等の分布調査を行った。 ①目標値:100,000pv(令和6年度の「日本遺産ホームページ」閲覧数) ②実績値:2,338pv(令和4年3月28日現在) ③達成率:2.3% この調査により山岳信仰と御嶽古道沿いの信仰に係る構成文化財の相関関係を調査できたことから、今後は御嶽古道の散策マップなどに情報を掲載するなど新たな散策の奥深さをひとつの魅力として発信していく。</p>

<事業報告書>

<p>事業の名称</p>	<p>日本遺産「甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡」総合活用活性化事業</p>
<p>事業の内容 (具体的に記載)</p>	<p>3. 調査研究事業 (4) 古道に関する調査研究 ワーキンググループを立上げ、昇仙峡における複数ルートの調査研究を進め、古道の歴史を探るとともに、新たな観光ルートへの活用を検討した。 【第1回】◆開催日: 令和3年9月17日(金) 午後2時～午後3時30分 ◆開催場所: 甲斐市役所(大会議室) ◆内容: 構成文化財/参考資料/今後のスケジュールほか 【第2回】◆開催日: 令和3年10月4日(月) 午後2時～午後3時 ◆開催場所: 甲斐市役所(大会議室) ◆内容: 追加する石造物群/現地調査についてほか 【第3回】◆開催日: 令和3年11月17日(水) 午前8時30分～午後3時30分 ◆開催場所: 御嶽古道 ◆内容: 現地調査 ◆調査エリア 調査エリアは、御嶽古道(亀沢、吉沢、塚原の3筋)の起点から金櫻神社までの区間とする。 ① 亀沢口(甲斐市島上条敷島仲町交差点～金櫻神社) ② 吉沢口(甲府市千塚交差点～金櫻神社) ③ 和田口・塚原口(甲府市朝日五丁目交差点～千代田湖) ◆調査報告書の作成 ◎調査報告書(データ)</p>
<p>得られた効果 (具体的に記載)</p>	<p>3. 調査研究事業 (4) 古道に関する調査研究 甲府市/甲斐市の歴史文化財的な視点や観光の視点に加え、大学生や御嶽古道を守る地元の任意団体等を含めたワーキンググループにおいて、その魅力の深掘りを行った。 ① 目標値: 5件(令和6年度の「御嶽古道トレッキングツアー」の実施数) ② 実績値: 8件(令和3年度: 昇仙峡観光協会が主催したツアー数) ③ 達成率: 160% 日本遺産ストーリーが「シリアル型」で認定を受けていることから、ワーキンググループにおいてもそれぞれの自治体や地元任意団体など情報共有を図り連携した事業に取り組めたことで、地域活性化に新たな可能性を見出すことができた。</p>

<事業報告書>

<p>事業の名称</p>	<p>日本遺産「甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡」総合活用活性化事業</p>
<p>事業の内容 (具体的に記載)</p>	<p>3. 調査研究事業 (5)その他(マウンテンバイク等によるコースの調査研究) 構成文化財に触れる新たな観光アクティビティとして、マウンテンバイクを活用した御嶽昇仙峡や御嶽古道を楽しむツアー商品開発に向けた基礎調査を行った。 ◆調査の実施 ①初心者向け練習場に関する調査 ②トレイルに関する調査 ③事業性の検討及び提案 ◆調査報告書の作成 ◎調査報告書(50部)</p>
<p>得られた効果 (具体的に記載)</p>	<p>3. 調査研究事業 (5)その他(マウンテンバイク等によるコースの調査研究) コロナ禍で自然を楽しむ観光に需要が集中している中で、御嶽昇仙峡や御嶽古道等の日本遺産ストーリーをアクティビティで楽しみながら触れることができるよう、昇仙峡エリア内でのマウンテンバイクのコース等を調査研究した。 ①目標値:5件(令和6年度の「御嶽昇仙峡マウンテンバイクツアー」の実施数) ②実績値:7件(令和3年度:昇仙峡観光協会が主催したツアー数) ③達成率:140% 令和3年度はツアーの中で、インストラクターが昇仙峡エリアの地形や地質の紹介、文化の魅力を発信することができた。今後はツアー形式以外でも楽しめるコース設定などを検討し、すそ野の広いマウンテンバイカーが、いつでも昇仙峡日本遺産のストーリーに触れることができる環境整備を図っていく。</p>

<事業報告書>

<p>事業の名称</p>	<p>日本遺産「甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡」総合活用活性化事業</p>
<p>事業の内容 (具体的に記載)</p>	<p>3. 調査研究事業 (6)その他(キャニオニングやシャワークライミング等の新たなアクティビティの調査研究) 構成文化財に触れる新たな客層を獲得するため、昇仙峡の特徴である巨岩、奇岩、清流を体験できるキャニオニングやシャワークライミング等の新たなアクティビティ導入の可能性に関する調査研究を行った。</p> <p>◆調査の実施 ①河川に関する調査 ②事業性の検討及び提案</p> <p>◆調査報告書の作成 ◎調査報告書(50部)</p>
<p>得られた効果 (具体的に記載)</p>	<p>3. 調査研究事業 (6)その他(キャニオニングやシャワークライミング等の新たなアクティビティの調査研究) 昇仙峡日本遺産のストーリーの核となる水の信仰や水晶に繋がる昇仙峡エリアの地質や地形を楽しみながら学べるアクティビティとして、キャニオニングやシャワークライミング等の実施可能性の調査を行った。</p> <p>①目標値:5件(令和6年度の「キャニオニング等のツアー」の実施数) ②実績値:0件(令和3年度:昇仙峡観光協会が主催したツアー数) ③達成率:-</p> <p>清流を活用したアクティビティには、常時、安全確保が求められることから、引き続き昇仙峡地域活性化推進協議会の中で実施の可能性など十分な協議検討が必要となる。</p>

<事業報告書>

<p>事業の名称</p>	<p>日本遺産「甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡」総合活用活性化事業</p>
<p>事業の内容 (具体的に記載)</p>	<p>1.情報コンテンツ作成事業 (1)日本遺産ホームページ開設事業 日本遺産「御嶽昇仙峡」の魅力ある情報を一体的に発信していくために、専用のページを開設した。 (https://kofu-tourism.com/japanheritage/) ◆リリース 令和3年10月15日 ホームページには「昇仙峡日本遺産のストーリー」や「見どころ」、「おすすめルート」を掲載するほか、令和2年度からの協議会議事録や令和3年度事業の告知、関連イベントの掲載を随時行っている。</p> <p>2.活用環境整備事業 (1)日本遺産ルート内公衆便所の洋式化事業 完了日:令和4年3月11日 施 設:甲府昇仙峡線 能泉駐車場トイレ 「御嶽昇仙峡」を代表する覚円峰を望む遊歩道入口の県営駐車場内の公衆トイレの洋式化を図った。 (2)日本遺産ルート内散策路沿いベンチ等設置事業 【天鼓林園地整備】 完了日:令和4年3月11日 施 設:昇仙峡天鼓林園地 長潭橋から県営駐車場までの遊歩道沿いにある園地の整備を行い、散策を楽しむ観光客の利便性向上を図った。 【ベンチ設置】 完了日:令和4年3月25日 設置箇所:御嶽古道入口に5基設置 散策を楽しむ観光客の満足度向上を図った。</p>
<p>得られた効果 (具体的に記載)</p>	<p>1.情報コンテンツ作成事業 (1)日本遺産ホームページ開設事業 ①目標値:100,000pv(令和6年度の「日本遺産ホームページ」閲覧数) ②実績値:2,338pv(令和4年3月28日現在) ③達成率:2.3%</p> <p>日本遺産に認定されたことにより、市民や関係団体が日本遺産に関連する協議会事業に関心を持つようになった。ホームページを開設したことにより協議会事業の見える化が図られ、市民等の事業参加が積極的になった。</p> <p>2.活用環境整備事業 (1)日本遺産ルート内公衆便所の洋式化事業 (2)日本遺産ルート内散策路沿いベンチ等設置事業 ①目標値:497,000人(令和6年の「昇仙峡エリア」への来訪者数) ②実績値:334,382人(令和3年1月～12月の合計) ③達成率:67.2% 活用整備事業が年度末であったことから、年度内の効果を測ることはできなかったが、日本遺産認定に伴い、御嶽古道などを散策する観光客が増えたことから、利便性の向上は図られているものと考えている。</p>

昇仙峡地域活性化推進協議会 令和3年度(2021年度) 収支決算書

収 入

【単位:円】

科 目	予算額	決算額	差引額	備考
協議会収入	37,382,346	37,602,346	220,000	
負担金	7,486,000	7,706,000	220,000	・協議会構成団体負担金 10,000円×8団体 ・甲府市事業費負担分 294,000円 ・山梨県事業費負担分 7,038,000円 ・甲斐市事業費負担分 74,000円→294,000円 【差引額:負担金の追加】ベンチ設置エリア変更に伴う甲斐市事業費追加分220,000円
補助金	25,806,000	25,806,000	0	・文化芸術振興費補助金 11,000,000円 ・文化資源活用事業費補助金 14,806,000円
繰越金	4,090,346	4,090,346	0	前年度からの繰越金 ・事務費 22,146円 ・事業費 4,068,200円(令和2年度事業費等返還用)
収入合計	37,382,346	37,602,346	220,000	

支 出

【単位:円】

科 目	予算額	流用額	予算現額	決算額	差引額	備考
協議会費	37,382,346	0	37,382,346	32,720,394	4,661,952	
事務費	102,146	0	102,146	95,960	6,186	
需用費	62,146	1,000	63,146	62,300	846	資料作成用紙、記録用メディア等
役務費	20,000	-1,000	19,000	13,660	5,340	郵便料等
負担金	20,000		20,000	20,000	0	日本遺産協議会負担金
事業費	33,212,000	-4,849,000	28,363,000	23,707,910	4,655,090	
報 償 費	450,400	-56,000	394,400	96,200	298,200	昇仙峡ガイド養成事業講師等謝金(7回分)
需用費	934,200	-934,200	0	0	0	
役務費	24,000	56,000	80,000	79,860	140	・振込手数料 ・イベント傷害保険
委託料	10,229,400	6,754,200	16,983,600	16,000,150	983,450	・日本遺産昇仙峡ガイド用ハンドブック制作 ・宝石研磨体験事業 ・観光客の受入環境整備調査 ・総合学術調査/古道関連文化財調査 ・マウンテンバイク事業の可能性に関する調査 ・新たなアクティビティ導入の可能性に関する調査 ・日本遺産ホームページ制作 ・昇仙峡天鼓林園地整備 ・散策路沿いベンチ設置
使用料及び賃借料	24,000		24,000		24,000	
工事請負費	21,550,000	-10,669,000	10,881,000	7,531,700	3,349,300	・県営駐車場内公衆トイレ改修工事
返還金	4,068,200	4,849,000	8,917,200	8,916,524	676	・R2年度分 文化庁返還分3,079,544円 ・R2年度分 山梨県返還分 112,000円 ・R2年度分 甲斐市返還分 7,340円 ・R2年度分 甲府市返還分 868,640円 ・R3年度 文化庁返還分4,849,000円 ※[文化芸術振興費補助金]計画変更に伴う補助減額分の返還
支出合計	37,382,346	0	37,382,346	32,720,394	4,661,952	

収入合計	37,602,346
支出合計	32,720,394
差引額	4,881,952

昇仙峡地域活性化推進協議会 令和4年度(2022年度)事業計画

【資料4-1】

(単位:千円)

○令和4年度 地域文化財総合活用推進事業(補助率10/10)

補助金の種類:文化芸術振興費補助金 対象事業:人材育成事業、普及啓発事業、調査研究事業

分類	事業	事業概要
人材育成事業	①昇仙峡ガイド養成事業	国内外からの来訪者が、構成文化財や昇仙峡の持つ歴史などを分かり易く理解し、周遊できるよう資料整理、多言語対応のガイドブック作成を行い、地域住民等による有償ガイドを育成する。
普及啓発事業	②構成文化財再発見事業	構成文化財である①水晶②研磨技術とジュエリー産業③金櫻神社と羅漢寺④御嶽新道と文人などのそれぞれの題材ごとに、調査を行い、市民がその歴史や背景を理解し、県外や次代へ語り継げるよう、市民や子どもを対象とした講座や講演会、体験、見学ツアー、シンポジウムなどを開催する。
	⑤日本遺産を理解するためのイベントの実施(研磨体験事業)	「宝石のまち・甲府」の礎となった研磨技術を広く後世に伝える研磨技術を体験する事業を開催する。
調査研究事業	③日本遺産への来訪者を増やすためのモニターツアーの実施(ファミトリップ)	昇仙峡の構成性文化財などを、年齢や目的、国籍などの属性ごとに周遊するコースなどを造成し、国内外の旅行事業者を対象としたモニターツアーを実施し、ツアー商品の造成を行う。
	④日本遺産への来訪者を増やすためのモニターツアーの実施(学校向け社会見学ツアー)	昇仙峡を社会科見学のコースとして市内小・中学生が訪れるように、年齢にマッチしたテーマやコースを設定し、小・中学校の教諭等を対象としたモデルツアーを実施し、普及啓発を行う。
	⑥昇仙峡総合学術調査	昇仙峡地域の地質調査をはじめ、自然、民俗芸能、文化財、信仰等について、幅広く学術的な知見からの総合的な調査を実施する。
	⑦未指定文化財の調査研究(修験道に関する更なる研究)	修験道の元である蔵王権現と金櫻神社、旧羅漢寺に関する調査研究は進んでおらず、更なる文献調査、遺構調査を行う。
	⑧古道に関する調査研究	覚円峰の上部を通る江戸時代の生活道路など、昇仙峡における複数ルートの調査研究を進め、古道の歴史を探るとともに、新たな観光ルートへの活用を検討する。
	⑨嗜好性調査(観光客の動向調査)	山梨県を訪れる国内外の観光客が、どのようなルートで来訪し、訪問をしているのか行動パターンを分析することにより、ターゲットの明確化、効果的な情報発信などの戦略を立てることが可能となる。
	⑩その他(ロードバイクやマウンテンバイク等サイクリングコースの調査研究)	新たな観光アクティビティとして、ロードバイクやマウンテンバイクのコース等を研究して、新たなツアー商品開発の参考とする。
	⑪その他(新たなアクティビティの調査研究)	昇仙峡の特徴である巨岩、奇岩、清流を体験できるキャニオニングやシャワークライミング、ロッククライミング、ラフティング等新たなアクティビティの導入可能性に関する調査研究を行う。
	⑫その他(昇仙峡地帯のブランディング化に向けた調査研究)	構成資産の景観と親和性のあるデザイン性、視認性に優れたサイン設置に向けた調査研究や昇仙峡への新たな誘客に必要な要素の洗い出しなどを調査し、今後のプロモーションに反映させていく。
	計	

令和4年度 文化芸術振興費補助金 交付申請書提出	
事業費	令和4年度(2022年度)
	事業内容
	通訳案内士を対象としたガイド養成講座7月～2月(計3回程度)
	日本遺産昇仙峡エリアの魅力を伝えるシンポジウムの開催 ・令和3年度までの調査研究発表 ・市民講座(研究発表) ・研磨体験コーナー etcも設定 ・養成したガイドを活用した市民向け現地講座7月～2月
	シンポジウムの中で、研磨体験事業を実施
	昇仙峡エリア内のブランド力向上を図るための統一デザインの必要性や効果を検証するための調査
	若い世代も興味や関心を抱く資源の活用方法や付加価値の向上、プロモーションの手法などを調査研究
10,100	

昇仙峡地域活性化推進協議会 令和4年度(2022年度)事業計画

【資料4-2】

○ 令和4年度 観光拠点整備事業(補助率2/3)
 補助金の種類:文化資源活用事業費補助金 対象事業:情報コンテンツ作成事業、活用整備事業

令和4年度 文化資源活用事業費補助金
 交付申請書提出

分類	事業	令和4年度(2022年度)			
		事業内訳	事業費	国庫補助金	協議会負担
情報コンテンツ作成事業	⑬多言語パンフレットの作成	パンフレット作成 (日本語/英語/中国語)			
活用整備事業	⑭便益施設の設置 (トイレのリニューアル)				
	⑮その他(構成資産の解説表示板、案内表示板の整備)	看板や解説板の多言語化整備			
	⑯便益施設の設置(散策路等におけるベンチ等の設置)	昇仙峡滝上園地景観整備			
		長田円右衛門顕彰碑横四阿整備			
		ベンチ設置(5基) 【甲斐エリア】			
昇仙峡エリア内遊歩道整備 (御嶽古道/板敷溪谷等)					
計		30,508	20,000	10,508	

昇仙峡地域活性化推進協議会 令和4年度(2022年度)その他事業

【資料4-3】

日本遺産関係補助金対象外事業

分類	事業	事業概要
その他事業	①日本遺産サポーターズクラブ設置事業	県内外の昇仙峡ファン、リピーターの方々に「日本遺産サポーター」として登録してもらい、地域美化活動や各種イベントへの参加を促す仕組みを構築する。
	②日本遺産関連土産商品開発事業	日本遺産のストーリーにマッチした、新たな土産品や食事メニューの開発を行う。
	③日本遺産情報発信事業	昇仙峡のイメージに基づき、その魅力を伝えるために、ホームページやSNS等を通じて国内外へ情報発信を行う。
	④昇仙峡の樹木伐採事業	昇仙峡の景観を向上させるために、マツクイムシなどで枯死した樹木や、景観を阻害する樹木の伐採を行う。
	⑤昇仙峡遊歩道の整備	昇仙峡を散策する方の観光意欲と利便性を高めるために、遊歩道等の整備を行う。
	⑥サイクリングコースを活用したツアーの実施	調査研究されたロードバイクやマウンテンバイク等のサイクリングコースを活用したツアーを実施する。
	⑦古道を活用したツアーの実施	調査研究された古道ルートを活用したツアーを実施する。
	⑧新たなアクティビティの提供	調査研究結果をもとに新たなアクティビティの提供を行い昇仙峡の新たな魅了創出を図る。

取組状況		
R2年度	R3年度	R4年度以降
		R4年度以降に幹事会等で協議/検討していく
		R4年度以降に幹事会等で協議/検討していく
各種団体のHPやSNSで随時情報発信している	R3年度にあたっては、日本遺産HPを開設し情報発信の体制の強化を図る	日本遺産HPを活用して、引き続き旬な情報を発信していく
枯死した樹木が乱立している箇所は、作業が困難な崖部分となっている	平易な箇所の伐採は、所管部局と調整し計画的に整備していく	平易な箇所の伐採は、所管部局と調整し計画的に整備していく
	R3年度にあたっては、「御嶽古道クリーン活動」を実施し遊歩道の景観及び安全性の確保に努める ※R4年3月11日開催※参加者12名	平易な箇所の整備は、所管部局と調整し計画的に整備していく
【昇仙峡観光協会】 R2.11.14「マウンテンバイク&ほうとう打ち体験」※参加者7名	【昇仙峡観光協会】 R3.10-11「マウンテンバイク&ほうとう打ち体験」※参加者62名	R4年度以降は実施中のアクティビティに加え、R3年度調査研究報告書を参考に更なる魅力的なツアーの実施検討をしていく
【昇仙峡観光協会】 R2.11.20「古道トレッキング&ほうとう打ち体験」※参加者16名	【昇仙峡観光協会】 R3.10-12「古道トレッキング&ほうとう打ち体験」※参加者80	R4年度以降も継続実施予定
【昇仙峡観光協会】 R2.10.18「荒川ダムカヌー体験&ほうとう打ち体験」※参加者9名 R2.11.15「テントサウナ体験&自家製ほうとう」※参加者20名 【野猿谷クライミングクラブ】 R2.10-3「野猿谷ボルダリング(エリア情報プレ公開(試行))」※来訪者534名	【昇仙峡観光協会】 R3.5.2-4「荒川ダムカヌー体験」※参加者60名 R3.8.4-8「荒川ダムカヌー体験」※参加者57名 R3.9-10「荒川ダムカヌー体験&ほうとう打ち体験」※参加者74名 R3.10-12「テントサウナ体験&自家製ほうとう」※参加者64名 【野猿谷クライミングクラブ】 R3.4-3「野猿谷ボルダリング(エリア情報公開)」※来訪者2,632名	R4年度以降は実施中のアクティビティに加え、R3年度調査研究報告書を参考に更なる魅力的なツアーの実施検討をしていく

(令和4年3月末現在)

【資料5】

昇仙峡地域活性化推進協議会 令和4年度(2022年度) 収支予算

収 入

【単位:円】

科 目	本年度予算額	説 明
協議会収入	45,572,952	
負担金	10,591,000	・協議会構成団体負担金 10,000円×8団体 ・甲府市事業費負担分 5,024,000円 ・山梨県事業費負担分 3,577,000円 ・甲斐市事業費負担分 1,910,000円
補助金	30,100,000	・文化芸術振興費補助金 10,100,000円 ・文化資源活用事業費補助金 20,000,000円
繰越金	4,881,952	前年度からの繰越金 ・事務費 6,862円 ・事業費 4,875,090円
収入合計	45,572,952	

支 出

【単位:円】

科 目	本年度予算額	説 明
協議会費	45,572,952	
事務費	86,862	
需用費	41,862	資料作成用紙、記録用メディア等
役務費	25,000	郵便料等
負担金	20,000	日本遺産協議会負担金
事業費	40,611,000	
報 償 費	140,000	昇仙峡ガイド養成事業等の講師等謝金
需用費	12,000	昇仙峡ガイド養成事業等の資料作成費
役務費	75,000	・振込手数料 ・昇仙峡ガイド養成事業等の傷害保険料
委託料	40,384,000	・日本遺産昇仙峡エリアの魅力を伝えるシンポジウムの開催 ・ブランド力向上の統一デザイン必要性/効果の検証調査 ・資源の活用、付加価値の向上、プロモーションの手法調査 ・多言語パンフレット作成 ・看板や解説板の多言語化整備 ・散策路沿いベンチ等設置 ・昇仙峡エリア内遊歩道整備 ・昇仙峡滝上園地景観整備 ・長田円右衛門顕彰碑横四阿整備
返還金	4,875,090	・文化庁への返還金 1,559,371円 ・山梨県への返還金 2,988,327円 ・甲斐市への返還金 106,539円 ・甲府市への返還金 220,853円
支出合計	45,572,952	

